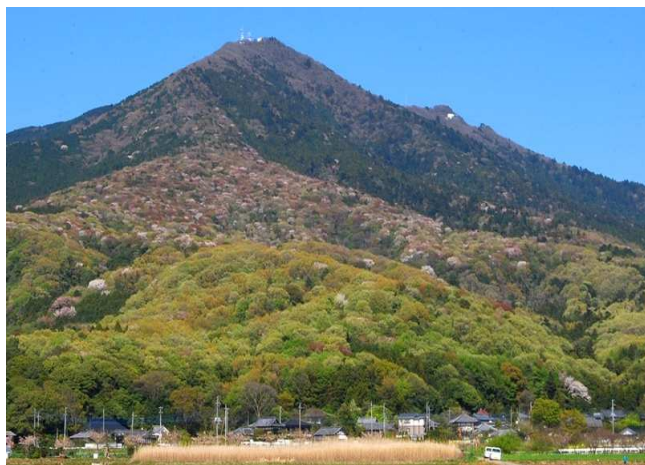




日本山岳会 **茨城支部報**

(No. 6)

(公社) 日本山岳会茨城支部 (JAC Ibaraki)
Ibaraki Section of the Japanese Alpine Club

2014(平成26)年5月1日発行

発行元所在地 〒 305-0045
つくば市梅園 2-21-21 浅野勝己方

目 次

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| p. 1 … 富士山頂高所科学研究拠点の設立を目指して | p. 12 … 4 支部合同懇親山行 |
| p. 3 … 2013(平成25)年度の活動報告 | p. 14 … 個人山行 |
| p. 5 … 2014(平成26)年度の活動計画 | p. 22 … 茨城支部役員名簿 |
| p. 5 … 2013年度会計報告と14年度予算 | p. 22 … 茨城支部会員名簿 |
| p. 6 … 支部山行 | p. 23 … 茨城支部規約 |
| p. 11 … 特別山行 | p. 24 … あとがき |
| p. 12 … 野外研修会 | |

富士山頂高所科学研究拠点の設立を目指して

浅野 勝己 (JAC茨城支部事務局長・NPO法人富士山測候所を活用する会理事)

I、はじめに

昨年の2013年は、わがNPO法人にとり歴史的な追い風の年となった。

すなわちその第1は本NPO法人の副理事長の三浦雄一郎氏が、5月23日に世界最高齢の80歳で3回目のエベレスト峰登頂を達成された快挙であり、次の第2は6月22日のカンボジャにおけるUNESCO総会での“富士山”の世界文化遺産への登録の決議である。



(富士山測候所の全景)



(測候所内での実験研究の風景)

三浦雄一郎氏は1966年に富士山頂よりスキーでの直滑降に成功され、次いで1970年のエベレスト峰8100mからの直滑降挑戦に発展されて世界を驚かせ、しかもアカデミー賞に輝いた冒険スキーヤーである。このように三浦氏は富士山と縁が深く、“山頂は日本列島で一番宇宙に近いところにあり、天文学、大気科学、高所医学などの研究基地として最高の研究拠点となって欲しい”とのエールを頂き、2005年11月の本NPO法人設立総会時より副理事長として参画戴いているところである。

また富士山の世界文化遺産への登録は、永年の夢の実現でありこの山頂に位置する富士山測候所は、国の施設としてなんらかの形で研究・教育などへ利活用する方向で発展して行く基点となったと思われる。

II、富士山測候所の前史とNPO法人富士山測候所を活用する会の設立経緯

約120年前の1894年に野中 至と妻の千代子の両氏が山頂剣ヶ峰で冬季の気象観測に命がけで取り組み、日本最高地点での気象観測のパイオニアとなった。その後、1895年より1910年までは、中央气象台が夏季に気象観測を行い1927年以降は佐藤順一氏の協力により越冬観測も可能となった。さらに1932年より国の施設として通年の気象観測が開始され、5人の測候所員が3週間交代で勤務する体制で、2004年9月に無人化されるまで72年間、標高3776mの高所での観測などの業務に専念したのである。

この間、1964年には藤原寛人―新田次郎―氏の5年におよぶ大蔵省への陳情による5億円の資金獲得で気象レーダーの測候所設置が実現し、同時に庁舎の改築に10億円が投じられ大成建設により5年を要して現在の庁舎が完成されたのである。これらの事情は、NHKプロジェクトX“命がけの富士山測候所”および石原裕次郎監督“富士山測候所”に詳しく報道されている。

さらに新田次郎著“富士山測候所”には自らの体験が赤裸々に著述されている。

気象衛星“ひまわり”の登場により、富士山頂レーダーの必要がなくなり1999年に35年間に及ぶレーダー観測は幕を閉じることとなった。しかしこの間多くの国民の生命を台風の惨禍から救うことに貢献したのである。

また気象情報も“ひまわり”より入手出来ることから、2004年9月末で無人化することになった。

気象庁は2005年3月に“跡地利用検討委員会”の中間とりまとめとして“富士山測候所の跡地は極地高所研究拠点とするが、引き受け機関がない。”との発表を行った。

一方、2004年9月の無人化直前の庁舎見学に参加した研究者約40人が御殿場に集合し、“富士山高所科学研究会”を設立した。会長；小生、副会長；土器屋由紀子(大気化学)が選出された。2005年5月に最初のシンポジウムを開催し以降国際ワークショップを含む2回の会議を開き、極地高所研究拠点としての活用促進を提案した。また7月には測候所の見学会を開催した。さらに関係省庁の首脳および国会議員を訪問し、引き受け機関と予算策定の配慮を懇請した。

2005年11月27日に都内で85人の参加者のもとに、富士山高所科学研究会が中心となりNPO法人“富士山測候所を活用する会”の設立総会を開催し、会長に中村 徹氏(元運輸事務次官)、理事長；小生；副理事長；土器屋由紀子が選出された。こうして2006年4月28日に内閣府よりNPO法人の認証を得て引き受け機関として成立することが出来たのである。

現在、約200人の会員のもとに、年間約3000万円の運営費を必要とし、資金源の民間助成金は1000万円～2000万円程度を見込んでいる。

幸運にも2007年度より3年間にわたり気象庁との庁舎賃貸契約(7～8月の2ヶ月間)を締結する運びとなり、この3年間で総計43件の研究が展開され、このうち高所医学および順応トレーニングは15件であり、新知見が得られている。さらに2010年度以降3年間の再契約が締結され総計54件の研究が実施され、このうち8件が高所医学分野であった。高所順応トレーニングには、2007年

の高知山岳連盟が最初で、次いで2009年の日本山岳会青年部および埼玉山岳連盟、2010年の静岡市山岳連盟が夫々参加されている。

さらに2013年より5年間の再契約が締結され、昨年は18件が活動した。

2007年より2013年までの7年間の研究分野別の利用者数の推移をみると、2ヶ月間に延べ300~400人が滞在し、大気化学、高所医学、宇宙線・放射線科学、永久凍土などの研究が中心的に活動している。研究者の多い大気化学分野で注目されるのは、大気中のCO₂濃度の連続測定が2010年より開始され、ハワイのマウナロアと同期して測定出来る夢が実現したことである。年々4月頃のピーク値が400ppmの黄色信号帯域に接近しつつあり地球温暖化の貴重な指標として各界に発信して行く必要がある。また最近注目されたPM_{2.5}や二酸化硫黄、一酸化炭素、水銀などの大気汚染物質が隣国からの大気中に検出され、毎年濃度が上昇している傾向が指摘されている。これらの研究や観測・測定は、継続的に実施することが必要である。

III, 山頂での高所医学・高所順応トレーニングの発展

2005年の第25回日本登山医学シンポジウム総会において、次の3項目の提案が満場一致で決議されたのである。

1. 富士山頂を高山病予防の基地にしたい。
2. 富士山頂を高所順応のセンターにしたい。
3. 富士山頂を高所医学研究のメッカにしたい。

6000m以上の高峰登山者の2.3%におよぶ遭難による高い致死率を出来る限り低減させるために、高山病予防のための高所順応トレーニングが不可欠であるとのコンセプトから、富士山頂での高所順応の重要性が指摘される。

山本と浅野(2009)の研究の結果、富士山頂での2泊3日滞在の順応トレーニングにより高所での低酸素耐性の向上することが明らかにされた。

2007年の高知山岳連盟以来4グループが山頂での高所順応トレーニングに参加されていることはご同慶の至りである。今後の多くのクライマーの山頂でのトレーニングを衷心より期待したい。

IV, 将来への展望

欧米には標高4000m級の山峰に古くから多くの高所科学研究の拠点が設立されており、現在まで優れた研究が脈脈と継続されて来ている。たとえばスイスとイタリアの国境にあるモンテ・ローザ峰(4559m)の山頂には、CRM(Capanna Regina Margherita)と称される高所科学研究所が1893年に設立されているのである。また米国コロラド州のパイクス・ピーク峰(4300m)山頂の研究所では、半世紀以上にわたり多くの高所医学研究が継続されている。一方、わが国にはCRMやパイクス・ピーク研究所のような研究拠点が無い。是非、現測候所を国立研究施設に発展する夢を実現したい。

文献 浅野勝己 (山岳文化 14:20-24, 2013)

2013(平成25)年度の活動報告

茨城支部の主な活動

(事務局長) 浅野 勝己

当支部は2007年6月に全国で27番目の支部として、21人の会員で発足したが、現在36人となりほぼ隔月の講演会および山行を中心に意欲的にクラブライフを盛り上げて来ている。

2012年4月1日よりわが山岳会は、公益社団法人として発足した。

当支部はとくに公益性の高い自閉症者への登山支援などを中心に努めて来ている。

すなわち今年度は創立6周年を迎え、5回の講演会および6回の支部山行および1回の野外研修会を実施した。また特別山行として第11～12回の自閉症者協会への登山支援を行った。さらに第7回の4支部合同懇親山行(栃木支部主催)に日光市足尾銅山見学をふくめ星埜支部長ら12人が

参加した。

(会議)2013年6月22日(土) 総会

土浦県南生涯学習センター

自閉症者協力登山計画、第6号支部報発行の件、
“茨城の山事典”発行の件、4支部合同懇親山行
参加の件などの審議。出席17人、委任状19人。

茨城支部活動報告 (平成25年4月～26年3月)

(総務委員) 高木 康雄

講演会 (会員以外の一般にも公開)

第30回 (平成25年4月20日(土))

「シルクロードをめぐる旅・パート1」

茨城支部・西川元禧会員

(参加者: 会員14人・一般18人)

第31回 (6月22日(土))

「プレートテクトニクスとその周辺」

もと気象大学校長・河村 謹^{まこと}氏

(参加者: 会員17人・一般19人)

第32回 (9月14日(土))

「私の定年後の過ごし方～音楽と山歩き～」

茨城支部・山田茂則会員

(参加者: 会員14人・一般17人)

第33回 (11月23日(土))

「インカトレイルを歩く」

茨城県山岳連盟海外委員長・椎名正明氏

(参加者: 会員13人・一般14人)

第34回 (平成26年1月10日(土))

「ロシア・カムチャッカの自然と登山、現地の素晴らしい人たち 一附: その探検史と、地図で見る
明治以降日本の北方進出の歴史」

茨城支部・長岡正利会員

「世界の山旅 (各地の山岳写真紹介)」

アルパ インターサービス(株)営業部長・亀田広明氏

(参加者: 会員15人・一般20人)

支部山行

第36回 (4月13～14日)

八ヶ岳・赤岳 (山田明L、星埜)

第37回 (6月29日～7月1日)

早池峰山 (山田明L、星埜、長岡)

第38回 (8月9～10日)

吾妻小富士と微温湯(長岡L、星埜、奥井、高木)

第39回 (8月22～24日)

劔岳 (山田明L、星埜、山本、斎藤、ほか3名)

第40回 (10月17日)

大博^{だいぱた}多山 (山田明L、星埜、山田茂則、西川、
杉山、三井(JAC本部)、ほか3名)

第41回 (11月13日)

八溝山と大神宮山(長岡L、奥井、高木、山本、西川)

第42回 (12月1日)

富士山5合目 (長岡L、奥井)

第43回 (12月11～12日: 忘年山行)

奥久慈男体山・白木山 (酒井、浅野、奥井、柳、富田、
山本、荒木、諏訪、高木、斎藤、大竹、山田明、
山田茂則)

特別山行

第11回 (6月25～26日)

平標山下見 (茨城県自閉症協会協力登山)
(諏訪L、奥井、斎藤、山田明)

第12回 (7月20～21日)

平標山 (茨城県自閉症協会協力登山)
(諏訪L、星埜、奥井、浅野、柳、高木、斎藤、
山田明)

野外研修会 (会員以外の一般にも公開)

第13回 (10月18日)

「南会津の紅葉とキノコ狩り体験教室」

(講師: きのかアドバイザー・杉山、奥井、西川、
斎藤、山田茂則、ほか3人)

4支部合同懇親山行

第7回 (2月1～2日)

栃木県日光市足尾町、国民宿舎かじか荘にて。
当支部より星埜支部長ら12人が参加。

2014(平成26)年度の活動計画

(総務委員) 高木 康雄

講演会 (会員以外の一般にも公開・公募)

第35回 (平成26年4月12日(土))

「虫刺されの予防と治療 ～皮膚炎をもたらす
身近な虫・など～」

薬剤師、JAC茨城支部支部友・奥井登美子氏

第36回 (6月22日(日))

「カラコルムとパミールの間ーシムシャール谷の
自然と人々ー」

日本ヒマラヤ協会(HAJ)理事長、日本山岳文化学会
理事、JAC会員・伊東 満 氏

第37回 (以下、未定)

支部山行 (現時点で予定のあるもの)

6月 微温湯ぬるゆの石楠花を見て、近くの山と史跡にも

7月 大朝日岳

8月 剣岳 (早月尾根)

10月 キノコ狩り(公開・公募研修会)と会津の山

12月 忘年山行 (茨城の山)

特別山行

7月 茨城県自閉症協会協力登山

野外研修会 (会員以外の一般にも公開・公募)

10月 南会津での「キノコ狩り体験教室」

2013(平成25)年度会計報告と2014(平成26)年度予算

(経理委員) 西川 元禧

2013(平成25)年度会計報告 (案)※

収入の部	
24年度より繰越	155,072円
支部会費	47,000円
支部助成金	87,500円
寄付金	60,000円
預金利息	31円
収入合計	349,603円

支出の部	
会場費	15,620円
郵送料	22,000円
コピー費	12,150円
支部報発行費	51,345円
講師謝礼	25,000円
その他	34,935円
支出合計	161,050円

差引 26年度へ繰越	188,553円
------------	----------

2014(平成26)年度予算 (案)※

収入の部	
25年度より繰越	188,553円
支部会費	50,000円
支部助成金	90,000円
寄付金	10,000円
預金利息	30円
収入合計	338,583円

支出の部	
会場費	13,000円
郵送料	25,000円
コピー費	15,000円
支部報発行費	65,000円
講師謝礼	15,000円
その他	30,000円
支出合計	163,000円

差引 27年度へ繰越	175,583円
------------	----------

※ 決算と予算は、26年度総会の議を経て決定される。

支部山行

(第37回) 早池峰山

期 日：平成25年6月29～7月1日（晴れ）

山田 明

参加者：山田明L、星埜、長岡（計3人）

6月29日（土）早朝、長岡車でつくば発、途中山形の神社仏閣をいくつか拝観。花笠音頭で有名な鈴立山若松寺には「夏木立千古の秘仏ほほえみぬ」の碑が。左沢^{あてらざわ}温泉に着き、スーパーで食料を調達。温泉旅館泊。この日快晴。

6月30日（日）旅館から古寺鉾泉へ、天候は曇り、長い稜線歩きを考え大朝日岳登山はここで断念する。雲の切れ間から見る大朝日岳の尾根はまだ残雪が豊富。9時に鉾泉発、急遽登山を早池峰山に切り替える。15時には早池峰神社着、ここでは天候快晴。河原坊登山口の駐車場に TENT を張る。

7月1日（月）河原坊登山口5:40→早池峰山山頂8:40発9:00→小田越の峠11:00→登山口11:30、天

候、快晴。東和ICより高速道に入り、つくば着20時。



（早池峰山山頂の一等三角点と記念撮影）

(第38回) 吾妻小富士と微温湯(ぬるゆ)

期 日：8月9～10日（晴れ）

星埜 由尚

参加者：長岡L、星埜、奥井、高木（計4人）

25年8月9～10日の二日間、「健脚でなくても登れる東北の山」と銘打って福島県いわきの国宝阿弥陀堂などを見学しつつ吾妻小富士を登る小登山を行った。参加者は、長岡正利さんをリーダーとして、茨城支部最長老の奥井清さん、高木康雄さん、それに私の四名である。

9日の朝7時過ぎ拙宅に高木さんを乗せた長岡さんの車がやってくる。拙宅から奥井さんを迎えに行き、土浦北インターから常磐道に入り、いわき勿来インターで降りて国宝白水阿弥陀堂を拝観

する。私以外の皆さんは初めての拝観である。平安末期の浄土庭園と阿弥陀如来を祀った比較的大きな寺堂である。周りを丘陵に囲まれ、巾着状に奥まった地形の中に浄土庭園と阿弥陀堂があり、浄土はかくなるものと昔の人は思ったことだろう。阿弥陀堂を訪ねたのち、飯野八幡宮に参拝した。応神天皇と神功皇后を祭神とする古社で、本殿、楼門など重要文化財に指定された建造物が多い。再び、いわきインターから磐越道を通り福島まで行く。福島西インターで降り、吾妻小富士のすぐ



（白水阿弥陀堂(国宝)）



（飯野八幡宮(重要文化財)）



(吾妻小富士の火口縁。左の奥井さんの背後が一切経山で、中腹に噴煙が見える。)



(ぬる湯温泉)

下の浄土平まで高湯温泉を經由し山岳道路を走っていく。浄土平の手前には火山ガスが出ているところもあり、硫黄のにおいが鼻をつく。一切経山の斜面からは小さいが噴煙も上がっている。

吾妻小富士に登る。吾妻小富士は、揃り鉢形の火口を持った吾妻山の側火山である。小富士とはよく言ったもので、富士山を小さくした形で、山麓から見ると富士山の山頂の形とよく似ているので吾妻小富士と名付けられたのであろう。最長老のペースを考えて、ゆっくり休みながら登る。約20分で火口壁の直上に上がる。噴火口がよく見える。深さ約70m、火口壁の反対側に1707mの最高点がある。噴火口を巡るのはやめ、元の道を下る。

浄土平に戻り、磐梯吾妻スカイラインを福島に戻る。福島市の民家園を見学するつもりだったが、4時を過ぎ、閉園となっていたので諦め、微温湯温泉に向かう。微温湯温泉まで約30分林道を行き、5時前に微温湯温泉旅館二階堂に着いた。早速温泉に浸かる。温泉と言っても湯温は、31.8度である。夏なので冷たさは感じないが、泉名の通りぬる湯である。いつまでも入っていられる。無色透明だが、源泉掛け流しの湯(水?)を飲むと、酸味と渋みの混ざった複雑な味だった。泉質は含アルミニウム泉と成分表には書いてある、湧かした湯も用意してあるが、源泉の方に入った後では熱い。



(福島市民家園の、旧・廣瀬座(重要文化財))

源泉のぬる湯に30分以上浸かり夕食の時間も近いので湯から出た。中には3時間も入っている人がいるそうである。夕食は、山のものばかりである。福島の桃が一つ丸ごとついている。ビールなど飲み、たらふく食べ、さらに部屋で若干飲んだ後、就寝した。

翌朝、5時頃には目が覚める。まずぬる湯で爽やかな気分になる。朝はぬる湯から出ると少しひんやりとするが、それはそれで心地よい。朝も30分は入ったのだろうか。湯治客の人は、朝3時から入りっぱなしだという。長く入っていると、掌がふやけてくる。長い人は半日でも入っていられるのだろう。ぬる湯に浸かった後朝食を取り、宿を出る。当初、一切経山に登ることも考えていたが、取りやめて前日見逃した民家園を見学し、時間があれば会津の寺社を訪ねることとする。その前に、長岡さんご推奨の地元の農産物直売所に行く。桃が箱にして売られている。野菜などもたくさん売られていて朝早くから買い物客でいっぱいである。安いので桃や野菜などをかう。民家園には、重要文化財に指定されている廣瀬座という芝居小屋、江戸時代後期の農家などの修復された文化財が点在し、なかなか見所も多い。結局1時間半程度見学したため、時間もなくなり、会津はあきらめ、猪苗代湖畔の天鏡閣を見に行く。土湯温泉を通り、猪



(天鏡閣(重要文化財))

苗代湖に抜けて、猪苗代町翁島の天鏡閣と高松宮別邸(福島県迎賓館)を見学する。天鏡閣は、明治末期に建てられた洋風建造物で元有栖川宮の別邸だったものである。高松宮別邸は和風建築で大正時代に建てられた。庭園を見学することができる。ともに重要文化財に指定されている。見学後、喜



(旧・高松宮別邸(重要文化財))

多方ラーメンを食べて帰途についた。

吾妻小富士山行は、山行と言うにははなはだ手軽な山行で、日本山岳会会員としては大きな声で語れないものであったが、国宝や重要文化財などを見学し、珍しい温泉も楽しみ、教養も高めることのできた小山行であった。

(第40回) ^{だいはた}大博多山

山田 明・山田 茂則

期 日 : 10月17日 (曇り: 翌日は特別山行「きのこ狩り」)

参加者: 山田明^L、星埜、山田茂則、西川、杉山夫妻、三井(JAC本部)、ほか2名(計9人)

早朝、車に分乗し「道の駅 湯の香しおばら」で待ち合わせ、本部の三井さんとも合流、計6台の行列で大博多山の登山口へ7時半過ぎ出発。青柳集落から林道に入ると、20日の山開きのための道路整備のため重機が道を塞ぎ、車は通行不能、青柳まで戻って駐車し歩くことにする。約1時間歩いて登山口へ。登山開始11時15分、いきなりの急登を1時間で稜線へ、それより稜線を辿って大博多山山頂に13時着、天候は曇り、360度の展望はきくが遠くは見えない。歩いている時は汗が出るがじっとしていると肌寒い。



(大博多山山頂)

一等三角点は、新田次郎の「劔岳点の記」に登場する古田盛作が明治31年に設置したもの。

昼食後13時20分山頂発、稜線分岐点14時10分、登山口に15時着、歩いて青柳の駐車場着16時。登らなかった奥井さん、斉藤さんと一緒に古町温泉赤岩荘の鉄分、塩分豊富な熱い湯に入る。料金600円。明日は、杉山さんの案内でキノコ狩りへ。

(ここまで山田明記。後半は山田茂則記。)

翌18日は、きのこアドバイザーである杉山さんをリーダーに民宿を7時45分に出発。場所は南会津地内山林で宿の主人の運転する軽トラの荷台に



(一等三角点「大博多山」)

乗り約20分で山の中腹まで運んで貰いました。全員が到着後杉山さんから場所の説明があり各自思い思いの方向に散り2時間半ほどキノコを探しました。天気も良く西方には立派な三岩岳が聳え、キノコ狩りとともに南会

津の山々の景観も十分に楽しめる場所でした。集合時間にはキノコを沢山持っている人も少しの人もいましたが、採ったものを杉山さんに同定してもらい食べられるものを持ち帰りました。キノコ狩りは、採取場所を熟知していてキノコを同定できる人が同行しさらに料理方法等を教えてもらう状況にないと積極的になりませんが、すべてを兼ね備えた杉山アドバイザーに感謝。帰りに寄った小豆温泉「窓明の湯」も良い温泉でした。

以下が当日採取したキノコです。(杉山さんのホームページ「つくばきのこ研究所」から引用。)

食用キノコ：ツバフウセンタケ、クリタケ、ムキタケ、ムラサキシメジ、キシメジ、チャナメツムタケ、シロナメツムタケ、ホウキタケ、シロカノシタ、カラストケ。

毒キノコ：ベニテングタケ、ニガクリタケ、カキシメジ、ハナホウキタケ、ドクツルタケ

(第41回) 八溝山と大神宮山

期 日：11月13日(水)日帰り(快晴)

西川 元禧

参加者：長岡L、奥井、高木、山本、西川(計5人)

朝6時、既に山本、高木両氏を乗せた長岡氏の車が牛久の拙宅に到着し、土浦に向かい、奥井薬局で奥井氏を乗せて今日のメンバーが全員揃う。

6時35分、常磐高速を北へ、^{だいご}太子町に向かって出発。途中、7時10分、友部サービスエリアに到着し休憩。更に8時頃、山方トンネルを抜けて8時半に「道の駅 太子」到着し小休止。愈々太子町に入ったのだが、さすがに太子町の町域は広く、ここから車は更に走り続け、蛇穴集落^{じやけち}の先で八溝嶺神社の大鳥居^{やみぞさん}をくぐり、八溝山の頂上直下の林道終点に到着したのは9時半。ここから2、3分の歩きで茨城県の最高峰・八溝山頂上^{やみぞみね}(1022m)に到着。

頂上では一等三角点標石、八溝嶺神社を巡り、お城の形をした展望台に登って周囲の山々の展望を楽しむ。北方遠くに安達太良山や磐梯山、北東には阿武隈の山々、北西には那須連山、西には日光連山と、飽く事の無い眺めに時間を忘れる。

林道終点に戻ると、八溝山～池の平～高笹山～大神宮山と続く福島県との県境尾根縦走路の起点

があり、以前歩いた当時の事が思い起こされて懐かしい。

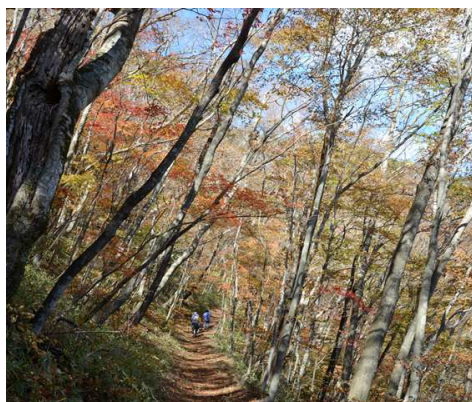
林道終点を10時15分に出発し、20分で坂東21番札所の日輪寺に到着し、参拝の後、落葉広葉樹林の中の八溝嶺神社旧参道を歩いて、徳川光圀公の命名と言われ日本名水百選にも指定された金性水に立ち寄る。

これから車は大神宮山の方へ移動し、細い唐竹久保林道を延々と進んで12時45分に登山口に到着し、13時15分に大神宮山頂上(746m)。この山は伊勢神宮の遥拝所だった所で、頂上にある遥拝石^{めがね}(眼鏡石)には「丸い穴から覗く169里先が伊勢神宮」と記されている。また頂上には野生生物観察施設として展望台があり、北側は樹林で展望は無いが、南側は開けていて、茨城県北の山々の眺めを楽しみながら昼食をとった。

13時45分頂上を後にして、14時35分「道の駅 太子」に立ち寄り、帰路に就く。



(八溝山頂上、右脇が三角点)



(紅葉の中、金性水への道)



(大神宮山頂上、左端に遥拝石)

(第42回) 富士山5合目

長岡 正利

期日：12月1日(木)日帰り(快晴) 参加者：長岡L、奥井(計2人)

2人とも30～40年ぶりの、初冬の富士山5合目でした。



(5合目の小御岳にて)

駐車場から10分程で小御岳(約2305m)頂上。



(冬の5合目は天と地の境)

世界遺産指定を機に、冬の登山口は嚴重に閉鎖。



(5合目の土産物店街の賑わい)

快晴のもと、前方に南アルプスの連山を望む。

(第43回) 忘年山行(奥久慈男体山～白木山)

期日：12月11～12日(忘年山行)(曇り)

山田 明

参加者：山本L、浅野、高木、荒木、諏訪、斉藤、大竹、山田明、山田茂則

ほか、忘年会参加：奥井、柳、富田、酒井 (計13人)

10時に、袋田温泉の太子町無料第二駐車場へ集合。

駐車場から今夜の宿「白木荘」で8台の車を4台に乗り換え、全員で持方の登山口へ。記念写真を撮って、登山グループは10時40分発。

男体山(654m)の山頂着11時30分。天候は曇り、一等三角点「頃藤」の「点の記」を配る。なぜか山ガールも一緒に写真に入って、昼食後12時山頂発。白木山への縦走路は、地形図に登山道は描かれていないが踏み跡はある。現在工事中の袋田温泉からの林道に13時45分一端下りてから、長いロープを使って白木山(616m)山頂着14時10分。10分休憩後、下山。恋人峠という名の案内板に14時25分。

はっきりしない踏み跡を辿って持方集落に下り、出発点の駐車場着14時45分。4時間の、冬枯れの稜線をゆく山歩きはなかなか楽しいものだった。帰り道でたまたま酒井さんの車と合流、一緒に白木荘に到着。茨城支部の忘年会は昨年と同じ場所で開催された。

宿到着が早かったため、風呂に入ってから部屋でビールお酒を飲み始め、夕食時にはほぼ出来上がってしまい、本番ではあまり酒が進まず、翌朝の精算で集めた会費1万円から2900円を全員にお返しした。山に登らない人も参加できる忘年会です。今年の忘年会には、是非たくさんの会員の参加をお待ちしています。



(持方駐車場)



(男体山頂)

特別山行

(第12回) 平標山 (茨城県自閉症協会協力登山)

期 日 : 7月20~21日

参加者 : 諏訪L、星埜、奥井、浅野、柳、高木、斎藤、山田明、贅田(JAC本部) 9名

(自閉症協会 : 細川、根本、増子、長谷川、大島、山浦、磯前、大関、野村 20名)

(ボランティア : 鳴海、塚本、三浦、長岡 4名)

合計33名

茨城県自閉症協会との協力登山は、平成16年8月の富士登山から始まり、磐梯山、岳沢小屋、三国山、奥白根山などに登りました。平成25年7月20日、21日に茨城県自閉症協会夏期療育年長キャンプが開催され、27名の参加があった。特別参加の贅田評議員と支部員8名態勢で対応し、平標(たいらっぴょう)山登山に協力登山した。

自閉症は広汎性発達障害の一つで、人との関わりに著しい障害が見られるもので、身体的コミュニケーションの著しい障害、友達ができない、楽しさを分かち合おうと人のもとに来ることがない、気持ちを通じ合わせられないなどの症状を持つ。

そこで私達は参加者の登山経験や症状を知るため、当日のバスの中で各人を観察し、夕食を共にして登山日の班編成に備えた。

20日、大型バスで谷川岳ロープウエー駅に向かった。3班に分け、ゴンドラに乗車する。晴天の中、天神平のお花畑を一時間ほど散策、皆に笑顔が見える。17時、宿泊先の猿ヶ京温泉へ。入浴などの自由行動の後、18時夕食。希望者はカラオケで元気に歌う。真剣に歌う姿に感動した。

21日、平標山登山口を8時出発。班編成を考えていたのだが、会員9名で前後をサポートして行動することとした。長袖の着用、虫除けスプレー持参、かや付き帽子の着用など、虫に刺されないよう注意を促す。12時、参加者全員が無事に山頂に到着する。美しい高山植物の中で昼食をとる。登山行動は心配なさそうなので、下山は山の家を経由し、登山口へ16時着。旅館で入浴後、帰路へ。21時水戸ドライブインで解散する。帰路のバスの中で参加者から「大変楽しい療育キャンプでした。山岳会の方々の安全登山への真摯な姿勢に、いつもながら頭が下がります。プロの方達と一緒にだからこそ安心して登山に挑戦できることを、今回も痛感しました。親子ともども、身体を使って楽し

い経験を集団で行う意義はとても大きいと思いました」との発言があった。

茨城支部としては、登山支援のお役に立つことで、公益社団法人としての事業活動を続けていく所存である。

(ここまでの前半は諏訪記。以下は山田記。)

7月20日(土) 土浦駅発8時、水戸ドライブイン経由で谷川岳ロープウエーの土合口駅、ロープウエーで天神平駅へ。ここから希望者は歩いて10分ほどの高倉山(1449m)に登る。目の前に聳える晴天の谷川岳東面を眺める。こんなによく見えるのは珍しい。山頂の三角点は見つからなかった。夕方5時前に猿ヶ京温泉「清野旅館」に着。

7月21日(日) 旅館を7時過ぎにバスで出発。平標山登山口の駐車場に7時40分着。橋を渡って登山口手前の広場で準備体操。8時に登山開始。天候は高曇り。最初から樹林帯の中の急登が続く。先行グループと遅れ気味のグループとに分かれ、送電線鉄塔に後ろのグループ着が9時30分。これよりさらに差は広がり、松手山(1614m)着10時30分。

先行グループは既に出発済。ここでこの先の行動についてどうするか聞いたところ、本人、家族が登りたいということとボランティアのサポート



(平標山山頂にて)

があることから、このまま登山を継続することとした。ここから山頂までのルートは稜線歩きで風も通り、眺めがよく、傾斜も最初の登りに比べると緩やかになり歩くペースが速くなってきた。後からの団体登山グループに追い抜かれることなく平標山山頂着12時15分。記念撮影、昼食を取って山頂発12時40分、木の階段を下って平標山の家に13時20分、20分休憩して下り、林道合流点に14時40分、車も通行可能な広い林道を歩いて15時50分、出発した駐車場に戻る。予定より約30分の遅れと

なったが全員無事下山した。

松手山を出たところでポツポツと雨になったがすぐに止み、山頂は高曇り、林道は晴天だが大きな木が太陽を遮って日蔭道、疲れていても歩きやすかった。予定していた人達全員が無事にこの周回コースを歩き下山できたことに担当した茨城支部として安堵した。若いボランティア4人の力が大きいことも再確認させられた。今回、自閉症協会との登山を最初に始められた日本山岳会本部の贅田さんが参加され、一緒に登った。

野外研修会

(第13回) 南会津の紅葉とキノコ狩り体験教室 (10月18日)

第40回支部山行「大博多山」に、まとめでの記述あり。

第7回 4支部合同懇親山行

浅野 勝己

日時：2月1～2日

会場：栃木県日光市 足尾歴史館、銅山観光

本年より昨年に創立した群馬支部が加入され、4支部として発足することになった。

わが支部は合計12人が参加し、4支部の総参加者は47人であった。

初日はJAC会長の森 武昭氏のご挨拶の後、各4支部の事務局長より活動報告がなされた。

引き続いて、記念講演が行われた。すなわちNPO法人足尾歴史館館長の長井一雄氏による“足尾銅山の歴史—光と陰—”と題する興味深く感動的な講演であった。

そのあと、歴史館の見学が行われ、先駆者古河市兵衛氏の活躍の偉大さに魅了された。

当夜は国民宿舎の“かじか荘”において夕食をかねた懇親会で各支部間の親交を深めることが出来た。

翌日は予定していた備前楯山への登山が雪崩れの危険が予想される為に取り止めとなり松木溪谷への散策を午前8時からおよそ2時間かけて行った。

そのあと、銅山観光の山田 功氏の解説により約2時間にわたり実際の銅山坑内に入坑して、採鉱の雰囲気を実感する事が出来た。

そのあと一同昼食を摂り解散となった。

来年の第8回4支部合同懇親山行は2月の第1週土、日で千葉支部の担当である。

以上

銅は 少年時代の友達だった

奥井 清

昨年、4支部合同登山が悪天候で中止になり、足尾銅山の見学会となりました。

今は廃坑になっている採掘現場を見て、坑道を歩き、足尾歴史館に行って、NPO理事長の長井一雄氏から「足尾銅山の歴史」の講演と、歴史館の資料を見せていただきました。

田中正造が明治天皇に直訴したことで知られ、日本の公害問題の原点ともいえる歴史的に意義の

ある資料館でした。

その時、長井氏から、「緑青^{ろくしょう}は猛毒ではない。」というお話をきいているうちに、私が子どものころ「鉱石ラジオ」というものがあり、銅線などを使ってラジオづくりに夢中になった時のことを懐かしく思い出しました。当時は銅線のアンテナを立てただけで、NHKのラジオ放送が、電気を使わずにイヤホンを通して十分に聞こえました。

屋根に登り、棒を立て、T字型にアンテナを立てます。銅線の長さは10メートルぐらいのもので、ラジオの部品はゲルマニウムの結晶（半導体）・細い銅線のコイル、それにダイヤルコンデンサーを接続しただけで、見事にNHKの音楽♪が聞こえてきたのです。

これが契機となり、世界の放送を聞くことが出来る短波ラジオ製作にのめりこみました。

子供のことで科学薬品の色彩にも興味を持ちました。奥井薬局は、小西六の代理店として写真の現像をやっていました。現像室にはいろいろな薬品が並んでいました。硫酸銅は水に溶けにくいのですが温度を上げると溶け、下げるととても綺麗な結晶が生まれます。結晶の種を入れるか入れないかで出てくる結晶の形が違ってきます。不思議で不思議でたまりませんでした。硫酸銅の結晶（無水和物）は白ですが、水に溶かすと青緑

色になり、太陽光に透かすと幻想の世界が広がります。私が化学というものに興味を持った原点は、ちいさなフラスコから眺めた宇宙なのかもしれません。

緑青は塩基性炭酸銅などの銅塩の混合物で、空中の水分と炭酸ガスで水に溶けにくい被膜となって銅を保護します。

鎌倉の大仏など、露天の大きな大仏様の髷のところなどに緑色の緑青が発生し、それが自然に出来た仏様のおしゃれのように見えることもあります。

銅は、「青銅器時代」といわれるように、古代の人たちが最初に興味をもち、利用した金属だと思っています。

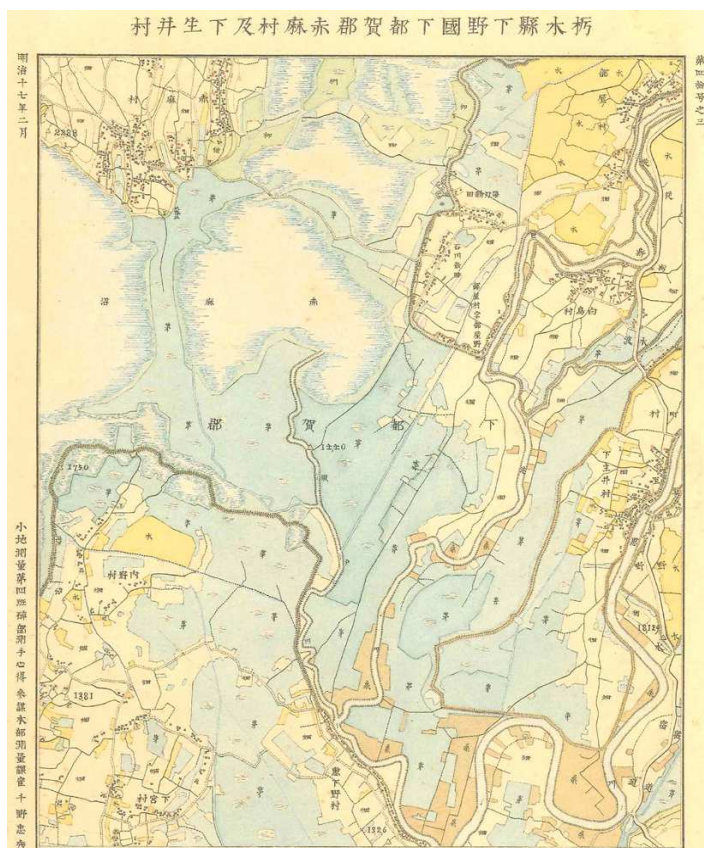
足尾銅山の跡地が国指定史跡になり、さらに世界遺産にまでなることを願っています。



ト望ヲ新機製リヨ倉赤尾足



戦前の絵葉書に見る足尾銅山



明治17年測図の2万分1迅速測図原図(国土地理院所蔵)
かつての谷中村(市町村制度改定で合併する以前の、
内野・恵下野・下宮村)の一带が、図中の左下に見える。



アレクサンダー時代？の銅貨
(2012 東京ミッドヨー 販売品)



中国古代の青銅器
(東京国立博物館蔵品をJAC長岡撮影)

劔岳前退、金峰山よれよれ登山の記

酒井 國光・愛子

期日：7月28日～8月1日

この山行は我が家の「224回目の夫婦登山」である。「前退」という言葉は私の造語である。「中退」まで行かずにその前に敗退してしまったからだ。

目的は早月尾根から劔岳を往復すること。初日は、車で出てベースキャンプのテントを馬場島に置く。二日目は早月小屋泊まり。三日目は頂上を往復して早月小屋泊まり。四日目馬場島へ下山。五日目帰宅という余裕のある計画だ。(國)

行動記録：

7月28日(日)、曇りのち晴れ

今日の予定は、高速を使って馬場島まで行っただけだ。ルートは谷田部ICから入り常磐自動車道(以下、自動車は略)→北関東道→東北道→北関東道→上信越道→北陸道を走り、滑川ICで降りる。ここまで家からちょうど7時間かかった。明日から登山なので体力温存のため、休み休み来たからだ(國)

馬場島着14時。ここはとても広く樹々に囲まれた気持ちの良い所。トイレもサイト代も無料。町営らしく、綺麗でかつ音、宣伝、色、店、…そういう余計なものが全くない。テントも無かった。

14時半頃、数人ずつの男子パーティーが下山してくる。しばし休み、着替えて車で帰る人が多い。たんたんとして山へ行く人が行き交う昔の登山を思い出す。

20時半頃就寝。雨降り出す。夜中も多少雨音はしたが、早月川の音が両側からものすごく、雨はあまり気にならず。(愛)

29日(月)、終日雨強く降る

4時過ぎ起床。初めはしとしと雨だったが、しだいに強くなる。テントの中でお湯を沸かしお茶を飲む。

近くの炊事場に移り、コンロ3台を使い朝食を作る。1台ではレトルトのカレーとご飯を温め、もう1台では生米からおにぎり用のご飯を炊き、

最後の1台ではおにぎり用の鮭を網で焼く。

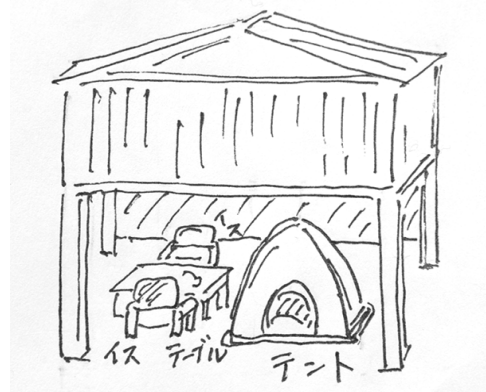
お茶の残り湯を沸かしてみそ汁とし、アツアツカレーライスの朝ご飯、昼食用のおにぎりもたっぷり作り、梅干も包んで入れた。

6時頃より登る準備をして万端できたものの、雨がだんだん激しくなったのでしばらく様子を見ることにした。(愛)

馬場島荘へ天気図を見に行く。従業員の話だと「北陸地方はまだ梅雨明けしていなく、数日は雨が続く」とのこと。今日は停滞とし、早月小屋にも連絡をする。「上はひどい雨なので無理しないように」とのこと。

雨がますます強くなるので、テントなどを炊事場に移動する。その後、近くの施設の下へ移動する。ここは下図のように広く快適な場所であった。

(國)



30日(火)、雨(廻り目平は曇り)

昨日からの雨は夜通し強く降り、今朝もまだ降り続けている。今日も停滞としたが、もし明日晴れたとしても、残る二日間で劔岳に登り、茨城の家に帰ることは絶対に不可能である。それなら潔く今日帰ってしまおうということになった。

撤収して、往路を逆に走った。上信越道を南下するとしだいに天気が回復し、前方の山がくっきりと見え出した。13時頃、急に、本当に急に「廻り目平へ行こう」となり、佐久小諸JCTから中部横断道に入ってしまった。廻り目平は何度も行っているし、テントで寝ているだけでも気持ちの良い所だ。

14時20分頃着き、テントを張り、金峰山荘の風

呂にも入ってすぐ「かんぱーい」。ちょっと残念だったのは、川上村のスーパーに岩魚が売っていなかったことだ。21時就寝。(國)

31日(水)、曇り

(4:30)起床、(6:45)出発。薄曇り。(8:15)水場で休む。(9:00)中間地点通過。石楠花が多く、登山道は細かい心遣いが感じられる。

(10:28)金峰山小屋通過。小屋から上は大石がごろごろした道。國光左膝外側痛く、ゆっくりゆっくり。(11:13)金峰山頂着。頂上直下西側の樹木の下に潜り込み涼む。ポカリ、レーズンクラッカー、蜂蜜、甘納豆、パイナップル缶詰…、美味。

下って(12:00)小屋、トイレ100円、登頂証明書付。

(14:00)林道へ出る。増水のためか河原がだい

ぶ荒れ、道が変わった感じだ。

國光の太ももから膝にかけて痛みが強まる。林道でも2回休み、よれよれになって(15:15)帰幕。往復実に8時間半もかかってしまった。(愛)

8月1日(木)、雨のち曇り

5時に起きるが、少し前から雨が降り出し、次第に強くなる。テントの撤収時にはかなりひどい降りだった。

6時50分に出発する。佐久から内山トンネルを潜って、下仁田ICに入り、北関東道の桜川筑西ICで降りた。ここからは高速を使っても下の道を走っても家までの所要時間は変わらない。

今回の前退の原因は「北陸地方が梅雨明けしていない」という認識に欠けていた極めて初歩的なミス」である。(國)

北ア・鹿島槍ヶ岳

期日：9月18～21日

この山行は我が家の「225回目の夫婦登山」である。当初は北岳へ行くつもりで計画を立てていた。しかし、直前の台風通過により野呂川林道が閉鎖されてしまった。さて何処に変更するか、考えた末に扇沢から爺ヶ岳を越えて鹿島槍を往復することにした。一時期「黒部川流域の山々」を地域研究としていた私は、四季を通してこの山域に足繁く通っていたが妻はずっと以前に行ったので記憶がうすいという。よしこれにしよう。(國)

9月18日(水)、快晴

新宿発7時のあずさに乗り、信濃大町で降りる。台風一過抜けるような青空だ。

扇沢までバスに乗り、10分位戻ると登山口だ。柏原新道はよく踏まれた道だ。石と木の根が階段状になり、遠く沢音が聞こえる。空は澄みわたり、大木の間を行くが時々涼しい風が吹きぬける。

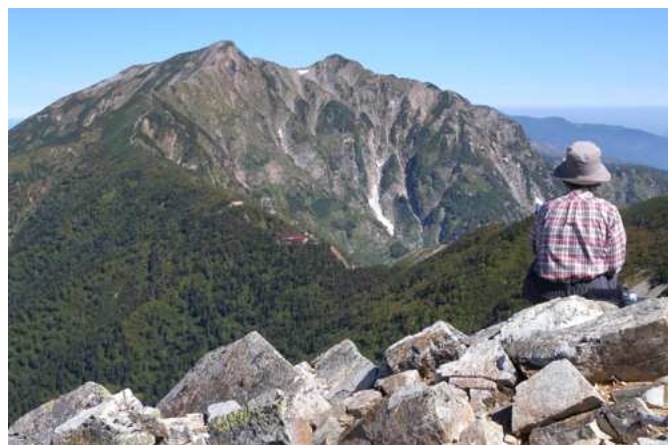
稜線に種池山荘が小さく見えるが、調子が上がらず眠気も出てくる。ふらふらと歩くが、なかなか小屋に近づかない。ガレ場が2～3箇所あり休み休み登り(16:45)到着。どっと疲れ、夕食はほとんど食べられなかった。こんなことは初めてだ。

酒井 國光・愛子

個室に泊まったが、玄関の上のため夜中戸の開け閉めの音がうるさかった。(愛)

19日(木)、快晴

(4:30)起床、(5:00)朝食、ゆっくり準備して(6:05)出発、(6:55)爺ヶ岳南峰登頂。大快晴、360°の大展望、風あり。山頂より遠く槍・穂高に感激。劔岳、鹿島槍の豪華さよ！



(8:35)冷池山荘着。個室は取れなかったが、部屋に荷物の一部を残して鹿島槍へ向かう。

鹿島槍への長い登りが始まったが、途中2回休み、意外と早くひょっこり頂上に着いて助かった

(11:20)。

すぐにスケッチ。とにかく剣がすごい。朝日に浮かんでいた剣は、次第に岩稜と雪渓がくっきりと鮮明になり、どっしりとすごい迫力だ。剣・立山を描くが手はなかなか思うように動かず。

2枚目は白馬・五竜方面。ガレ場の色が急に多くなり、ちょっと不思議。3枚目は鹿島槍北峰を描く。ここ南峰よりかなりガクンと降りるので行くのはやめた。

(12:45)に降り始め、30分で布引岳着。ここで鹿島槍方面と爺ヶ岳方面を描く。剣の方は雲が湧き出し形・色とも分からず。午前中に描いておいて良かった。

(15:30)山荘に戻り、生ビール。夕食後も談話室でTVを見ながら一杯。(愛)

20日(金)、快晴

(5:55)に冷池山荘を出て、(11:00)種池小屋に着いた。今日の空はひときわ碧い。すごい、すごい。一段と秋めいた山の色、遠くに見える赤や黄の小屋もかわいらしい。その中を雄大な峰々を眺めつつ歩くのは正に幸せのひとつ！

その間にスケッチしたのは次の4枚。

*赤岩尾根の頭より鹿島槍の勇姿。朝日に映える！快晴。

*爺ヶ岳中峰より剣岳。朝日の勇姿、ものすごい快晴。すこぶる気持ち良し。

*爺ヶ岳中峰より槍・穂高方面。秋色はじまる。すばらしい。

*爺ヶ岳南峰より鹿島槍。堂々の姿なり。

最後に、あまりにきれいだったので、小屋から少し戻って爺ヶ岳3峰を描く。黄、紅、緑、…美しき彩りに感謝。

大町に戻り、七倉荘に泊まる。(愛)

21日(土)、晴れ

急に大町に泊まったのには訳があった。大町山岳博物館の敷地内に「山岳図書資料館」がオープンした。当初3万冊の図書を予定していたが、8千冊しか集まらない。困った長野県山岳協会(略して長山協)の知人から寄贈の要請があった。長山協の人たちとは長い付き合いだ。1984年長山協と中国登山協会との合同登山技術研修会・訪中第二回アムネマチンⅡ峰隊に雇われ副隊長として参加した。共に頂上(6,268m)に立った仲間が何人もいる。

本棚の整理にと二回に分けて、計530冊程の山岳図書を寄贈した。保存展示を私は見ているが、妻は初めてだ。我が家に長く在った娘みたいな物だから会いたいだろうと、ついでに時間を取ったのだ。

歩いて往復し、45分程見学した。「こんなにきちんと管理公開されているなら、もう少し寄贈しても良いな」が妻の感想であった。

松本に出て、12時のあずさで帰宅した。(國)



(爺ヶ岳中峰から槍・穂方面)



(鹿島槍南峰から剣岳)

期日：11月3～4日

亭主が夏に山岳会の人に連れて行ってもらった福島の秘境の『ぬる湯』がとてもよかったから二人で行こうと言い出した。

私は駅に着くと観光案内所で情報をもらうことにしている。福島駅の観光案内所によって、ぬる湯に行くのにレンタカーがいいか、バスか、タクシーか聞いてみた。

「途中の山道が地震の時、崩れたままになっていて、レンタカーは危険です。途中で家が一軒もないのでバスはありません」

福島市は公園の面積が広い。タクシーの運転手は、親切に、途中の民家園に寄ってくれたり、公孫樹並木を見せてくれたりした。私がびっくりしたのは、公園の中の除染した土の放射性廃棄物の置き場。緑色の袋がルイルイと、隊列を組んで、きちんとと並べられている。美しい公園の中の異物のセシウムは30年後に半減期を迎える。その対比の異様さが実に印象的であった。

「ぬる湯」はききしにまさる秘境で、二階堂さんの宿があるだけ、31.4度の湯が最上流にあってそれがそのまま、小川になって流れている。たった一軒だけの宿は11月9日に冬の閉鎖にはいってしまう。私たちが行ったのはその一週間前であった。

平地の里はまだ紅葉の気配もないのに、ぬる湯のまわりの山だけは、見事な赤と黄色。やがて、ごオーと、音がして、どこからかやってきた「風の又三郎」が惜しげもなく紅葉を散らして、吾妻

小富士の向こうに、走り去ってしまった。山峡のリズムの中。赤と黄色の乱舞に二人とも息を呑んだ。

赤、黄色 葉の乱舞する夜明け
ぬる湯の宿の風の又三郎

豊かなる微温湯なり 満ち足りて
見あぐれば紅く光るもみじ葉

もみじ葉の 深紅のひかり受けて立つ
ぬる湯の宿のかやぶきの屋根

ぬるき湯の 光の角度さまざまに
深紅を散らす風の又三郎



(ぬる湯にある昔のこけしなど)



(ぬる湯周辺の紅葉)



(微温湯温泉本館と、左廊下の先がぬるい湯の浴室)



期日：10月18～22日

参加者：日本側 L諏訪(JR山岳連盟、JAC)、S.L奥村博(JR山岳連盟)、柴山信夫(JAC)、山本(JAC)、ほか7名。

韓国側 韓国鉄道鉄友山岳会 約15名

コースタイム

・10月19日(土) 老人峰(1,338m)

ホテル6:40 — (専用車) — 登山口10:00 → 山頂 12:00～10 → 昼食 12:25 ～ 13:15 → 溪谷 14:25 ～ 45 → 駐車場17:55～18:05 → 食堂18:20～19:20 — (専用車) ホテル22:50

・10月20日(日) 道峰山(740m)

ホテル9:20 — (専用車) — 道峰山駅10:00～20 → 仙人峰・満丈山峰・紫雲山峰 → 昼食14:30～15:15 → 駐車17:15～25 — (専用車) — ホテル18:15

・今回の登山は両国の鉄道関係の登山団体が毎年交互に実施している交流登山で、今年は日本側が訪問した。

・10月19日(土) 晴 老人峰登山

日本と韓国とは時差はないが日の出が1時間近く遅い。老人峰は東海岸側にある五台山(オダエサン)国立公園内の一峰、山頂に岩峰がありその姿が老人に見えることからこの名前がついたそうです。バスが発車すると韓国側の女性がいろいろな食べ物を配ってくれてサービスが良い。韓国では高速道路が大変発達している。東海岸方面に走り、途中1回トイレ休憩して峠の登山口に着いた。広い駐車場に車が多い。今日は土曜日で特に登山者が多い。韓国では登山が盛んと聞いている。服装が



(登山口)

大変カラフルだ。

樹林帯の中を緩やかに登っていく。葉が落ちて展望が良い。日本語が出来る韓国の隊員と日本語を覚えた経緯などを話しながら歩く。山腹をトラバースして岩峰基部についた。

山頂の岩峰は人が多い。人が多くて山頂の集合写真は撮れなかった。昼食場所がないので少し下り、ヘリポートの空地でブルーシートを敷いて昼食とした。酒が回ってきたが小生は登山中は飲まないと断った。韓国では登山の昼食時に酒を飲む習慣があるようだ。



(老人峰方向を見る)



(山頂展望図)

下りは尾根を急降下して沢に下りた。これから約7kmを沢沿いに歩くが鉄橋で何度も沢を渡った。紅葉がちょうど見ごろで綺麗であった。沢は滝や岩峰が多く、丁度、日本の西沢溪谷を二倍長くし



(紅葉)



(小金剛)

たようなところで「小金剛」と呼ばれている。

因みに「金剛山」はマスコミで報道されたように北朝鮮にあり、韓国側が開発して一大観光地になっている。

下山口近くの食堂でマッコリを飲んで食事をしてからホテルに戻った。

・10月20日(日) 快晴のち曇り 道峰山登山

道峰山はソウル近郊の北側にある北漢山(ブガンサン)国立公園内にある一峰。花崗岩の岩峰で駅から登れる山としてソウル市民に人気がある。ソウルからも良く見える。

今日は出発が遅いので、朝食はホテル近くの「おかゆ専門店」で食べた。「鮑かゆ」が大変美味かった。専用バスで最寄り駅に着いたら大勢の登山者がいてびっくりした。駅から登山口までの間、道の両側には登山用品店や食堂があった。



(コース案内図)



(道峰山の岩峰)

コースは沢山あり管理事務所で地図を配っている。我々是一周約5時間のコースを歩いた。途中、展望台からはソウル市街が良く見えた。高層住宅が目立って多い。

稜線には約3cmの太さのワイヤロープが連続してセットしてあり垂直のようなところもあってアップダウンはきついが安心して登ることができ、我々は三つの岩峰を登った。ここも紅葉は大変綺麗でした。

稜線の小ピークに、朝鮮戦争時(1950年6月～53年7月)に構築されたトーチカの残骸が2ヶ所あった。

下山口には韓国登山連盟の登山学校があり、近くの岩峰でクライミングの練習をしていた。

登山後、ソウル市内のレストランで日韓交流の食事会が韓国側主催で開催され、日韓岳人約30名が出席して大いに盛り上がった。

1月の支部公開講演会で、沢山のスライドでご紹介したとおり、昨7月にカムチャッカへ行ってきました。ここで、その写真を、少しですがご紹介。カムチャッカは、自然も、人々も、素晴らしいところでした。



素晴らしい大快晴のもとを半島へ。
(アバチャ湾上空で、ヴィリュチンスキー山とオパーラ山など)



半島中軸の山地を通過。
(バチェガズエツツ山すぐ北のカル地形)



州都ペトロハバロフスクの郊外。
(中央にアバチャ山と、左にコリャーク山)



雪原の正面が登山基地(標高800m)。右がこれから登るアバチャ山(2741m)と、左にコリャーク山(3456m)。



アバチャ山山頂の一角で全周(360度)眺望の繋ぎ写真。黒いのは1991年噴火の火口熔岩。左遠くにはコリャーク山。



アバチャ山からコリャーク山麓を下山中。各地で見たマーモット。 次に登るバチェガズエツツ山前衛の山と花。



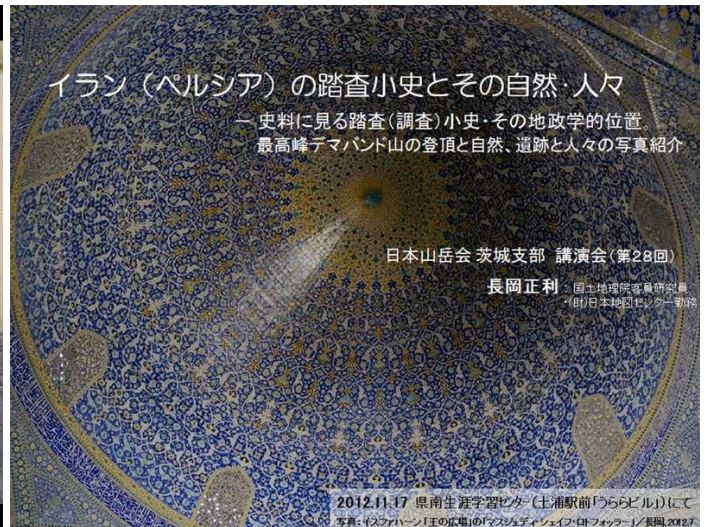
カムチャッカで出逢った、ロシアの素晴らしい人たち。 もう一度、この夏にも行きたい思いです。

(Damavand ; ダマバンド)

イラン・デマバンド山と各地の遺跡など : 平成24年6月30日～7月11日

長岡 正利

一昨年のイランです。支部公開講演会でご紹介のスライドから、そのごく一部をご紹介します。



デマバンド山(現地公称 5671m)へ: 山麓のケシと車道終点(2910m)。登山が盛んなイランの女子学生グループ。唯一の山小屋(4000m)と頂上直下。



山岳地帯の花々



イスファハーン、王のモスク

同、アルメニア正教会

ペルセポリス



今も記憶に残る、イランの人たち。楽しい日々でした。

日本山岳会茨城支部 役員名簿

茨城支部事務局・つくば市梅園2-21-21 (浅野事務局長宅) Tel.とFax.029-851-0015

支部長	： 星埜 由尚 (13985)	山行委員	： 山田 明 (14506)
副支部長	： 奥井 清 (4999)	監事	： 富田 郁夫 (8491)
事務局長	： 浅野 勝己 (12875)	監事	： 荒木 浩二 (11897)
総務委員	： 高木 康雄 (10679)	自然保護委員	： 堀内 孝雄 (11526)
経理委員	： 西川 元禧 (11916)	自然保護委員	： 和田 光弘 (12154)
広報委員	： 長岡 正利 (10752)	自然保護委員	： 山口 定男 (9760)
山行委員	： 山本 幸生 (10196)		

日本山岳会茨城支部 会員名簿 (アイウエオ順)

会員36人 (25年度の新入会3人)、支部友5人 (増減なし)

1 浅野 勝己 (12875)	16 鈴木 裕二 (9911)	31 山口 能子 (10369)
2 荒木 浩二 (11897)	17 諏訪 肇 (12990)	32 山口 定男 (9760)
3 安藤 弘 (14572)	18 関 義治 (14632)	33 山田 明 (14506)
4 石原 尚文 (14706)	19 高木 康雄 (10679)	34 山田 茂則 (15008)
5 井上 宏 (14716)	20 田中 大和 (14638)	35 山本 幸生 (10196)
6 牛田 清彦 (8703)	21 富田 郁夫 (8491)	36 和田 光弘 (12154)
7 大竹 正徳 (14608)	22 仲 徳二 (4853)	
8 奥井 清 (4999)	23 長岡 正利 (10752)	
9 亀山 哲 (12178)	24 西川 元禧 (11916)	
10 川久保 忠通 (14221)	25 星埜 由尚 (13985)	
11 小熊 宏之 (14658)	26 堀内 孝雄 (11526)	
12 斎藤 貞雄 (14542)	27 真木 雅之 (12155)	
13 酒井 國光 (8598)	28 三浦 昭鎚 (14325)	
14 清水 輝和子 (10758)	29 村山 和彦 (9935)	
15 鈴木 良二 (13012)	30 柳 明雄 (7089)	

支部友

- 1 奥井 登美子 (支部友 No.2)
- 2 酒井 愛子 (支部友 No.6)
- 3 杉山 敬 (支部友 No.1)
- 4 西川 道子 (支部友 No.3)
- 5 星埜 祥子 (支部友 No.4)



(酒井愛子「爺ヶ岳南峰から鹿島槍」：本誌15ページ参照)

(公益社団法人)日本山岳会茨城支部規約

2012(平成24)年4月1日制定

第1章 総則

(名称)

第1条 本支部は、公益社団法人 日本山岳会茨城支部(Ibaraki section of The Japanese Alpine Club)と称する。

(事務所及び支部地域)

第2条 本支部は、事務所を茨城県内に置く。

2 本支部の支部地域は、主として茨城県の県域とする。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本支部は、公益社団法人 日本山岳会（以下「本会」という。）定款及び支部に関する規程に基づき、定款第3条に定める活動を本会と一体として行うことを目的とする。

(事業)

第4条 本支部は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 登山及び登山に関連する活動。
- (2) 登山の指導奨励に必要な集会、研究会及び講習会等の開催。
- (3) 自然保護活動の推進。
- (4) 支部機関誌の発行。
- (5) 会員相互の親睦。
- (6) 本支部と目的を同じくする他の団体との連絡及び協力。
- (7) その他、本支部の目的を達する為に必要な事業。

第3章 支部会員及び支部友

(支部会員および支部友)

第5条 本支部会員及び支部友は、次の各号に掲げる個人又は団体とする。

- (1) 支部会員 本会の会員であって、本支部の目的に賛同し、本支部が定める会費（以下「支部会費」という。）を納める個人又は団体。
- (2) 支部友 本支部の目的に賛同し、本支部が定める会費（以下「支部友会費」という。）を納め

る個人又は団体。

第4章 役員及び職務

(役員)

第6条 本支部に次の役員を置く

- (1) 委員5名以上15名以下(うち1名を支部長、1名を副支部長、各1名を事務局長、総務、経理、広報及びネットワーク委員とし、2名を山行委員、若干名を自然保護委員)とする。

- (2) 監事 2名。

(役員の職務)

第7条 役員の職務は次の通りとする。

- (1) 支部長は、本支部の業務全般を管掌し本支部を代表する。
- (2) 副支部長は、支部長を補佐し支部長に事故のある時は本支部を代表する。
- (3) 事務局長は、本支部の事務を管掌する。
- (4) 各委員は、本支部の運営について他の委員と協議し、業務を執行する。
- (5) 自然保護委員は、本会と連携し自然保護活動に率先垂範して意見を具申し、自然保護活動の業務を執行する。
- (6) 監事は、委員の業務及び支部の会計を監査し、毎年総会に報告するほか、各種会議に出席し意見を述べることができる。

(役員の選任)

第8条 本支部の役員は、総会において支部会員の中から選任する。

- 2 役員のうち支部長については、選任後、本会理事会の承認を求めなければならない。

(役員の任期)

第9条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

第5章 会議

(支部総会)

第10条 本支部は、支部総会を最高の決議機関とする。

- 2 支部総会は、支部会員現在数の2分の1以上の出席(委任状を含む)で成立し、出席者の過半

数をもって議決承認する。

3 支部総会は、毎年1回以上支部長が招集する。
また他の役員が必要と認めたときは、支部長は臨時に支部総会を招集することができる。

4 支部総会の議長は支部長とする。

5 支部長は、支部総会において事業報告、会計報告、事業計画、予算その他役員会で必要と認めた事項の承認を得なければならない。

6 支部長は、支部総会終了後、前項について速やかに本会会長に報告しなければならない。

(役員会)

第11条 本支部には役員会を設け、原則として隔月に支部長が招集する。

第6章 会計

(経費)

第12条 本支部の運営に要する経費は、本会からの運営交付金及び事業補助金によるほか、支部会費、支部友会費、補助金、助成金及び寄付金等をもって充当し、本会と一体的な会計処理を行うものとする。

2 支部長は、前項記載の内容を毎会計年度終了後1月以内に本会会長に報告しなければならない。

(支部会費及び入会金)

第13条 支部会費は、年額1,500円とし毎年6月末日までに納めなければならない。入会金は、1,000円とし入会時に納めるものとする。

(支部友会費及び入会金)

第14条 支部友会費は、年額2,000円とし毎年6月末日までに納めなければならない。入会金は、1,000円とし入会時に納めるものとする。

(会計年度)

第15条 本支部の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第7章 解散

(任意解散)

第16条 本支部は、支部会員現在数の3分の2以上の同意により解散することができる。

(本会理事会の審議による解散)

第17条 本支部は、本会支部に関する規程第15条の規定により解散する場合がある。

第8章 規約の変更

(規約の変更)

第18条 この規約は、第10条2項による議決承認によって変更することができる。

(重要事項の変更)

第19条 本支部の名称及び支部地域の変更等重要事項の変更については、本会理事会の承認を得なければならない。

付則

1 この規約は、平成24年4月1日より施行する。

あとがき

ようやくに一段落です。これまでの編集ご担当・川久保様の、「そろそろ新しい方と交代し・・・」を受けて、取り敢えず暫定的に、川久保様スタイルを踏襲して進めて参りました。

終わってみますと、改めて、発足以来5ヶ年も担当してこられた川久保様のご苦勞が、まざまざと偲ばれます。ご苦勞様でした。今回の小生のは、単なる暫定お引受けでしたので、来年からは、どなたかが本腰を入れてご担当されることを祈っております。

時は春。野に山に生命が満ち溢れる素晴らしい季節となりました。皆様には、どうぞ、今年も素晴らしい山歩きがありますよう。
(長岡正利 拝)



(ヒマラヤの雲霧林原産の着生蘭、セロジネ属：小宅で開花中)

以下は、Web版『支部報』に対する追補です。

(2014.5.1 調製)

各項で書かれた場所(山など)の説明のために、関係のURLを示しています。

下記のURLには、ハイパーリンクを付しています。インターネット接続状態で、左クリックで情報をご覧ください。

1p. 富士山頂高所科学研究拠点の設立を目指して(浅野勝己)

富士山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=138.72731466545&latitude=35.360866659146>

「NPO法人富士山測候所を活用する会」のHP：<http://npofuji3776.net/index.html>

Wikipedia 富士山：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%8C%E5%A3%AB%E5%B1%B1>

【以下、共通事項としての、地理院Web地図についてのご説明を。】

山の位置については、国土地理院の地形図閲覧 <http://watchizu.gsi.go.jp/> でご覧頂きます。

上記の「富士山の位置」に付したURLからその地点へ飛んだ場合、

まず、「?・・・新しいサービス・・・に移行します。」と表示されます。

そこで、「OK」クリックで、新しい「地理院地図(電子国土Web)」へ移行します。

「キャンセル」(または「×」)で、従来の地図に近い、これまでの地形図閲覧サービス「ウオッチず」へ飛びます。

どちらか、お好みの方でご覧ください。

例えば、富士山の場合は、新しい「地理院地図(電子国土Web)」では、長大なURL(次)となります。

<http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/?crs=1&meshcode=53380505&z=16#crs=1&meshcode=53380505&z=16&zoom=15&lat=35.36073&lon=138.72738&lavers=BTTT>

従来型「ウオッチず」の方が、上記のような短いURLとなりますので、以下の各項とも、ここでは、それを採っています。

なお、URLは短縮化が可能(次記)ですが、うまくリンクできないこともあるので、原則としては利用しません。

URL短縮化の例：上記の富士山の場合、<http://p.tl/EURV>

6p. 早池峰山 (山田 明)

早池峰山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=141.48873634589&latitude=39.558543906355>

Wikipedia 早池峰山：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A9%E6%B1%A0%E5%B3%B0%E5%B1%B1>

6p. 吾妻小富士と微温湯 (星^{ぬるゆ}由尚)

吾妻小富士の位置：

<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=140.2584497477&latitude=37.722876872599>

その山上(頂稜)での全周(360度)展望。

http://www.kinki.kuwv.org/tenbou/photo/touhoku/grutto_20130809azuma_kofuji.htm

しばらくの接続(画像のダウンロード)時間のあと、360度展望がグルグル廻り始めます。

(上記は、光通信でないと閲覧(ダウンロード)困難です。

高木さんと星^{ぬるゆ}さんに続く奥井さんの後方には、一切経山中腹の火口跡からあがる噴煙(水蒸気)が見えます。

画面左上「地名へ」クリックで現れる文字(春の風景に)をクリックなされると、画面はそのまま、4月残雪期に変わります。

微温湯の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=140.29317131546&latitude=37.729018274077>

微温湯紹介のHP(一例)：<http://www.hikyou.jp/fukusima/nuruyu/nikaidou.htm>

「福島市民家園」のHP：<http://minka-en.com/index.html>

8p. 大博多山 (山田 明・山田茂則)

大博多山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=139.49044763889&latitude=37.22339225>

「きのこアドバイザー」杉山さんのHP：<http://members3.jcom.home.ne.jp/kinokoken/>

9p. 八溝山と大神宮山 (西川元禧)

八溝山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=140.27182941667&latitude=36.931523277778>

Wikipedia 八溝山：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AB%E6%BA%9D%E5%B1%B1>

10p. 富士山5合目（長岡正利）

富士山 5 合目の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=138.73288450994&latitude=35.394348259>

5 合目と 2 合目での周辺眺望：http://www.kinki.kuwv.org/tenbou/photo/s_alps/glutto_20131201fuji_5goume.htm

その画面左上「地名へ」クリックで表示される中の、「(2合目・・・)」クリックにより 2 合目へ。下には音楽YouTubeへのリンクもあり。

10p. 忘年山行(奥久慈男体山～白木山)（山田 明）

奥久慈男体山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=140.41845563889&latitude=36.724938472222>

白木山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=140.42688044444&latitude=36.737528722222>

11p. (第12回) 平標山（茨城県自閉症協会協力登山）（諏訪 肇・山田 明）

平標山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=138.8206865&latitude=36.818650416667>

「茨城県自閉症協会」のHP：<http://asibaraki.web.fc2.com/>

12p. 第7回 4支部合同懇親山行（浅野勝己）

山行予定の備前楯山位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=139.42569094444&latitude=36.656576138889>

12p. 銅は 少年時代の友達だった（奥井 清）

旧・足尾銅山精錬所の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=139.44269362332&latitude=36.667561888436>

訪れた「NPO法人 足尾歴史館」のHP：<http://ashiorekishikan.com/>

Wikipedia 足尾銅山：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B6%B3%E5%B0%BE%E9%8A%85%E5%B1%B1>

足尾鉍毒事件：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B6%B3%E5%B0%BE%E9%89%B1%E6%AF%92%E4%BA%8B%E4%BB%B6>

銅：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8A%85>

14p. 劔岳前退、金峰山よれよれ登山の記（酒井國光・愛子）

劔岳の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=137.61624672222&latitude=36.62472775>

Wikipedia 劔岳：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%B1%E5%B2%B3>

金峰山の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=138.62547765594&latitude=35.871629714298>

Wikipedia 金峰山：<http://urx.nu/8aLE>

15p. 北ア・鹿島槍ヶ岳（酒井國光・愛子）

鹿島槍ヶ岳の位置：<http://watchizu.gsi.go.jp/watchizu.html?longitude=137.74496575&latitude=36.6261195>

Wikipedia 鹿島槍ヶ岳：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B9%BF%E5%B3%B6%E6%A7%8D%E3%83%B6%E5%B2%B3>

17p. める湯温泉（奥井登美子・清）

「める湯」については、前掲「6p. 吾妻小富士と微温湯（星埜由尚）」に同じ。

17p. 韓国 ^{ノインボン} 老人峰・^{ドボンサン} 道峰山（山本幸生）

次URLの図に、老人峰がある「五台山(Odaesan)国立公園」（右方）と、
道峰山がある首都ソウル(中央左)近くの「北漢山(Bukhansan)国立公園」。

<https://www.google.co.jp/maps/@37.7146073,127.663627,9z>

次URLの中央あたりが、五台山(Odaesan)。

<https://www.google.co.jp/maps/@37.7763533,128.5845524,11z>

次URLの中央が、「北漢山(Bukhansan)国立公園」の、道峰山(Dobongsan)。

首都ソウル(Seoul 京城)は、図の下方(南方)。

<https://www.google.co.jp/maps/@37.6998239,127.0204554,12z>

衛星画像では、<https://www.google.co.jp/maps/@37.6986694,127.0204554,5082m/data=!3m1!1e3>

Wikipedia 大韓民国：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E9%9F%93%E6%B0%91%E5%9B%BD>

20p. ロシア・カムチャッカの自然と登山（長岡正利）

第34支部公開講演会（2014.1.11）の広報資料：<http://jac.or.jp/images/jac-ibaragisibu-3kai-kouennkai.pdf>

最初に登った、アバチャ山での景観・眺望：

http://www.kinki.kuwv.org/tenbou/photo/kamch/grutto_20130721avacha_hyouga.htm

http://www.kinki.kuwv.org/tenbou/photo/kamch/grutto_20130718rakuda_iwa.htm

http://www.kinki.kuwv.org/tenbou/photo/kamch/grutto_20130719avacha.htm ともに、写真上左クリックで地名など表示変更可。

州都ペトロハバロフスク（その北にアバチャ山）：<https://www.google.co.jp/maps/@53.1363524,158.7008098,11z>

アバチャ山西麓の衛星画像（中央が登山基地アバチャキャンプ：拡大してご覧を。）：

<https://www.google.co.jp/maps/@53.2592978,158.7411919,7376m/data=!3m1!1e3>

2つ目に登ったパチェガズェツツ山の衛星画像：<https://www.google.co.jp/maps/@53.0691802,157.9341148,7409m/data=!3m1!1e3>

その中央下が山頂（カールの南縁）で、左上道路近くの小湖沼群に固定キャンプ地。

Wikipedia カムチャッカ：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%A0%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%83%E3%82%AB>

(Damavand ; ダマバンド)

21p. イラン・デマバンド山と各地の遺跡など（長岡正利）

第28支部公開講演会（2012.11.17）で紹介したスライド、順に：枚数が多いので、分割掲出。

http://www.member.kuwv.org/nagaoka/pdf_data/20121117iran%20corr20130521_1.pdf：1 - 54p. 地理歴史概説とその踏査記録

http://www.member.kuwv.org/nagaoka/pdf_data/20121117iran%20corr20130521_2.pdf：55-108p. イランの自然と登山(写真紹介)

http://www.member.kuwv.org/nagaoka/pdf_data/20121117iran%20corr20130521_3.pdf：109-237p. 各地の遺跡紹介（同）

http://www.member.kuwv.org/nagaoka/pdf_data/20121117iran%20corr20130521_4.pdf：238-344p. 人々の日常と街の様子(同)

首都のテヘランとデマバンド山：<https://www.google.co.jp/maps/@35.7213731,51.4802351,10z>

デマバンド山の衛星画像（中央が山中唯一の山小屋、標高4000m：拡大してご覧を。）：

<https://www.google.co.jp/maps/@35.9311209,52.1091873,10402m/data=!3m1!1e3>

北東方にペルセポリスがある、シラーズ：<https://www.google.co.jp/maps/@29.7530881,52.6748382,11z?hl=ja>

王の広場(中央に)などのイスファハーン：<https://www.google.co.jp/maps/@32.6574193,51.6782958,14z>

ガズビンとアラムート城址の衛星画像（中央に城址：大きく拡大してご覧を。）：

<https://www.google.com/maps/@36.444619,50.585994,79354m/data=!3m1!1e3?hl=en>

Wikipedia イラン：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%83%B3>

イランの文化遺産：<http://p.tl/MUQI>

イランと米国の関係：<http://p.tl/Qfay> 英語版では、<http://p.tl/wJZ8>